

# 知識の広がりと思考の深まりを目指した 中学校家庭科消費生活の授業

— 知識構成型ジグソー法による対話的な学びを通して —

野村 悠衣<sup>1</sup>

家庭科における思考を促すために、「対話的な学び」の視点である「他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたりすること」に着目した。本研究では、中学校家庭科消費生活の授業において、知識を広げ、思考を深めるために、知識構成型ジグソー法による対話的な学びを行うことが有効であるか検証した。その結果、生徒の記述内容等から知識の広がりと思考の深まりが確認でき、有効であることが明らかになった。

## はじめに

中央教育審議会(2016 p. 28-30)は、育成を目指す資質・能力の三つの柱を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と整理し、これらは相互に関係し合いながら育成されると示している。『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説技術・家庭編』においても、家庭分野の思考力・判断力・表現力等の目標について「習得した『知識及び技能』を活用し、『思考力・判断力・表現力等』を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にしたものである」(文部科学省 2017)とあり、資質・能力の相互の関連性について示されている。

また「『主体的・対話的で深い学び』の実現」(中央教育審議会 2016 p. 48)が求められる中で、家庭科における「対話的な学び」の視点は、「他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたり、他者と協働したりするなど、自らの考えを広げ深める学び」(中央教育審議会 2016 p. 184)と示されている。

所属校は、横須賀市教育委員会による3年間のフロンティア研究助成を受託し、今年度で2年目を迎える。小グループでの対話を通した学びを軸に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行ってきた。

一方、自身のこれまでの実践では、小グループでの活動場面は取り入れていたものの、考えを伝え合う活動や調べ学習にとどまり、対話的な学びで求められている「自らの考えを広げ深める」ことが実際にできているかという点について課題を感じていた。

そこで本研究では、対話を通じて自分の考えをよりよくしていく力を引き出すための授業の「型」の一つである「知識構成型ジグソー法」を用いることとし、目的を次のように設定した。

## 研究の目的

中学校家庭科消費生活の授業において、知識を広げ、思考を深めるために、知識構成型ジグソー法による対話的な学びを行うことが有効であることを明らかにする。

## 研究の内容

### 1 家庭分野で育成を目指す資質・能力

中央教育審議会は「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料(2/3)」において、家庭分野の思考力・判断力・表現力等として育成を目指す資質・能力を「家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、これから的生活を展望して課題を解決する力」(中央教育審議会 2016 別添11-1)としている。

### 2 先行研究

#### (1) 知識構成型ジグソー法

『協調学習 授業デザインハンドブック 第3版「知識構成型ジグソー法」の授業づくり』では「『知識構成型ジグソー法』は、人が本来持っている対話を通じて自分の考えをよりよくしていく力を引き出しやすくするためのひとつの授業の型である」(白水ら 2020)と述べられている。一連の学習活動は、①教師が設定した問い合わせに対する学習前の考え方の記述、②グループごとに同じ資料を読み合い、グループで理解を深めるエキスパート活動、③違う資料を読んだ上で新たなグループを作り④の活動で分かったことを共有し、自分が担当した資料との関連を考える中で理解を深めるジグソー活動、⑤問い合わせへの答えを作り、根拠とともに発表するクロストーク、⑥問い合わせに対する学習後の考え方の記述、という主に五つのステップから成る。教材か

1 横須賀市立野比中学校 教諭

ら得た知識を自分の言葉で他者に伝えたり、他者から得た知識を自分で表現するために問い合わせたりする活動を通して、生徒一人ひとりが自分の考えを深め、よりよくしていくことを目的としている。

本研究の授業実践で取り扱う題材「持続可能な食生活」には、環境、社会、人、地域など、様々な要素が複合的に入り混じる。このような題材において、中学生自ら生活課題を設定し、課題解決に向けた実践活動を行うことは容易ではない。そこで、知識構成型ジグソーフ法による対話的な学びを行うことで、様々な視点を取り入れながら題材について考えを深めさせ、生活課題の発見から課題解決に向けた実践活動を行うことにつなげたいと考えた。

## (2) 「知識の広がり」と「思考の深まり」

小清水ら(2018)は、大学生を対象にした知識構成型ジグソーフ法を取り入れた家庭科の学習指導の実践的研究において、離乳食の意義について知識の広がりと考えの深まりがみられたと述べており、知識が増加することを「知識の広がり」、記述内容に具体性が増すことを「考えの深まり」と捉えている。

またシェイファーら(2018)は、中学生を対象にした消費環境学習の実践において、様々な視点から考えることの必要性を感じることができた生徒の姿から「思考の広がりと深まり」を確認している。

以上二つの先行研究に示された内容を踏まえ、本研究では、題材の問い合わせ(以下、「問い合わせ」という)を考え上で知識が増えたり、知識同士が関連付いたりすることを「知識の広がり」と定義し、家庭分野で思考力・判断力・表現力等において育成を目指す資質・能力につながると考え、記述内容が行動につながる要素のある具体的な内容になることを「思考の深まり」と定義した。

## 3 研究の構想

### (1) 研究の仮説

本研究における仮説は、次のとおりである。

中学校家庭科消費生活の授業において、知識構成型ジグソーフ法による対話的な学びを行うことは、知識を広げ、思考を深めることに有効であろう。

### (2) 検証の視点と方法

#### ア 知識の広がり

「持続可能な食生活」について記述したイメージマップより、問い合わせを考え上で知識が増えたり、知識同士が関連付いたりしているかを、授業の前後で比較し分析した。本研究では、思考ツールの一つであるイメージマップを仮説検証の手立てとして用いた。

#### イ 思考の深まり

問い合わせについて「今やっていること」と「これからやろうと思うこと」(以下、「問い合わせに対する考え方」という)

の内容が、行動につながる要素のある具体的な記述(以下、「行動につながる記述」という)になっているかを、授業の前後で比較し分析した。また、行動につながる記述になったと考えられる要因を、毎時の振り返りの記述内容から分析した。さらに、課題解決に向けた実践活動への意識の変容を授業の前後で比較し分析した。

## 4 検証授業

### (1) 概要

【期間】令和5年9月12日(火)～9月20日(水)

【対象】横須賀市立野比中学校

第2学年4クラス(計124名)

【時数】5時間(50分)

【授業者】野村 悠衣(筆者)

【題材】C 消費生活・環境(2)ア、イ

【題材名】持続可能な食生活を目指して

【題材の問い合わせ】持続可能な食生活を実現するために、今の自分にできることはなんだろう?

【題材計画】

時	【知識構成型ジグソーフ法の5つのステップ】 学習活動
1	【①問い合わせに対する学習前の考え方の記述】 日本や世界の食の現状や給食の取組を知り、問い合わせについて考える
2 ・ 3	【②エキスパート活動、③ジグソーフ活動】 持続可能な食生活の実現に向けて、現状と課題を見付け、私たちにできることを考える
4	【④クロストーク】 他のグループの発表を聞き、持続可能な食生活の実現に向けて、私たちにできることを考える
5	【⑤問い合わせに対する学習後の考え方の記述】 持続可能な食生活の実現に向けて、自分の課題を考え、今の自分にできることを考える

なお、夏季休業前に実態把握調査、検証授業前後にGoogle フォームによるアンケート調査を実施した。

### (2) 各時の概要

本研究では、第2時にエキスパート活動を行うために組み替えた学習グループを「エキスパートグループ」、それ以外の時間の学習グループを「ホームグループ」とした。

#### ア 第1時 【①問い合わせに対する学習前の考え方の記述】

日本や世界の食の現状や横須賀市学校給食の取組を知り、問い合わせについて考えることを主なねらいとした。

「持続可能な食生活」を「限りある資源を大切にし、今の世代だけでなく、将来の世代も安心して暮らすことのできる社会をつくるために行う食生活」と定義付けした上で、イメージマップと問い合わせに対する学習前の考え方を記述させた。その後、Google スライドにて日本や世界の食の現状について紹介し、問い合わせについて考え

ていくことの意義を理解させた。

#### イ 第2時【②エキスパート活動】

自分の担当する資料について知識を定着させ、課題の解決策を考えることを主なねらいとした。エキスパート資料は、より生活と関連付けて考えさせるために実態把握調査の結果を踏まえ、次の四つのテーマを作成した。

A：食料自給率	B：食品ロス
C：エコクッキング	D：エシカル消費

個人でエキスパート資料を読んだ後に、エキスパートグループ内で分かったことと気付いたことを共有させた。与えられた資料の内容をさらに深めたい場合は、Chromebookで調べてよいこととした。

#### ウ 第3時【③ジグソー活動】

四つのエキスパート資料の視点を取り入れることで、問い合わせについて具体的な解決策を考えることを主なねらいとした。ホームグループに戻り、それぞれの資料における現状・課題、自分たちにできる解決策を共有させた。その後、問い合わせについて四つのテーマを関連付けて考えられるように「買い物」「調理」「外食・ティクアウト」の三つの場面で自分たちにできることを考えさせ、Google Jamboardにイメージマップ方式でまとめさせた。

#### エ 第4時【④クロストーク】

問い合わせに対してホームグループでまとめた考えをクラス全体で共有することで、課題解決に向けてさらに思考を深めることを主なねらいとした。第3時にまとめたGoogle Jamboardを活用し、問い合わせについて上記の三つの場面で自分たちにできることを発表させた。発表の中の良い視点や疑問点については、筆者から声掛けを行った。

#### オ 第5時【⑤問い合わせに対する学習後の考え方の記述】

自分や家族の生活の中で特に改善すべき課題について、実践することを考えて具体的に計画を検討することを主なねらいとした。自分や家族の生活の中から設定した課題と、その課題を解決しようと考えた理由を記述させ、ホームグループ内で共有させた。そして第1時と同様に、イメージマップと問い合わせに対する学習後の考え方を記述させた。

### 5 結果と考察

#### (1) 生徒は知識構成型ジグソー法を活用した授業をどのように捉えたか

検証授業では、生徒が四つのテーマから情報を整理・共有し、既習事項や生活経験を交えた他者との対話を通して自分の生活の中での実践について考える時間を確保するために、知識構成型ジグソー法の各ステップに1時間配当し、重点題材として5時間で行った。検証授業後のアンケート調査では、93%の生徒に知識構成型ジグソー法を活用した授業を肯定的に捉えた記

述が見られた。以下に一部例を示す(表1)。

表1 知識構成型ジグソー法を活用した授業を肯定的に捉えた記述内容(一部抜粋)

生徒記述
・いつもの班とは違う人と話し合うことで、様々な意見が出てきて色々な視点から考えることができた。
・分担して一つのことだけ調べられたのでそのことについて詳しく調べることができた。
・違うことを調べていても、話がつながる(似ている)ところがあるのが面白かった。
・自分の考えと他の人の考えをつなげていっぱい考えて楽しかった。

多様な他者との交流や、一つのことを詳しく調べる活動、資料の内容を関連させて思考を深める活動等から、生徒が知識構成型ジグソー法を活用した授業を肯定的に捉えていることが確認できた。

自分の考えと他者の考えをつなげて考えることで、学ぶ楽しさを感じたと述べた生徒がいた。考え方の伝え合いにとどまらず、互いの考えを結び付けて考えたことで学ぶ楽しさを感じたことが分かる。このような記述は、対話を中心に他者と関わることを通して自分の考えを深めていくという知識構成型ジグソー法を活用した授業であるからこそ、表れたのではないかと推察する。

#### (2) 知識の広がり

##### ア 問いを考える上で知識が増えたか

「持続可能な食生活」について記述したイメージマップより、語句の総出現数と語句のカテゴリー別出現数を、第1時と第5時で比較し分析した。各カテゴリーの項目は、出現した語句の中から教科書にも記載されており題材を考える上で重要な視点であると判断したものである。⑪には「未来」「SDGs」「地球温暖化」など①～⑩に分類できない語句をまとめた。

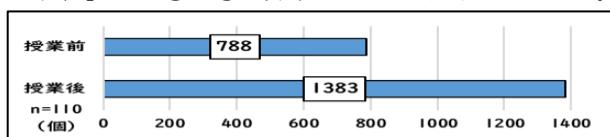


図1 語句の総出現数の比較

表2 語句のカテゴリー別出現数の比較 (n=110)

No	カテゴリー	エキスパート資料	授業前の出現数(個)	授業後の出現数(個)
①	地産地消(国産含む)	A	39	172
②	旬のものを購入	A,C	9	38
③	食品ロス対策	B,C	292	405
④	省エネ(節電、節水、節約)	A～D	16	182
⑤	認証ラベル付き商品の購入	D	0	102
⑥	被災地支援品の購入	D	0	5
⑦	オーガニック商品の購入	D	0	15
⑧	マイバッグ等の持参	C	0	68
⑨	プラスチック削減	D	0	54
⑩	生活排水の処理の工夫	C	0	44
⑪	その他	—	432	298
合計			788	1383

語句の総出現数は、授業前(788個、一人当たり平均7.2個)と比較して授業後(1383個、一人当たり平均12.6個)には約1.8倍増加した(図1)。一方で、語句の出現数が減少した、または変化しなかった生徒もいた。これらの生徒のイメージマップに出現した語句を分析した所、授業前と比較して授業後は「⑪その他」に分類される語句が減少し、題材を考える上で重要な視点である①～⑩のカテゴリーに分類される語句が増加していた。このことから、問い合わせるために必要な知識を習得することができたと考えられる。

カテゴリー別に見ると、授業後は①～⑩の全てのカテゴリーにおいて語句の出現数が増加し、⑤～⑩のカテゴリーの語句は、授業後に初めて出現した。また、A～Dそれぞれのエキスパート資料から関連する語句が出現しており、題材を通して知識が増加したことが分かる(表2)。

#### イ 知識同士が関連付いたか

一人当たりの核の平均出現数を第1時と第5時で比較し分析した。なお、井上(2014)の先行研究を参考に、本研究ではある語句を中心に三つ以上の語句が接続する場合、その中の語句を「核」と定義した(図2)。図2の場合、「買い物」が核となる。



図2 核のイメージ

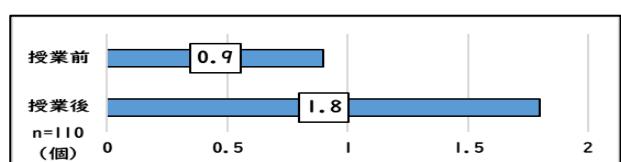


図3 一人当たりの核の平均出現数の比較

一人当たりの核の平均出現数は、授業前(0.9個)と比較して授業後(1.8個)には2倍増加した(図3)。この結果から、知識同士を関連付けられたと推察できる。イメージマップ内の語句と核の増加が顕著に見られた一部生徒を抜粋し、イメージマップの形状と事後インタビューの結果を分析した。

#### (ア) イメージマップの形状分析

生徒Aについて、イメージマップで示された授業前後の変容を示す。

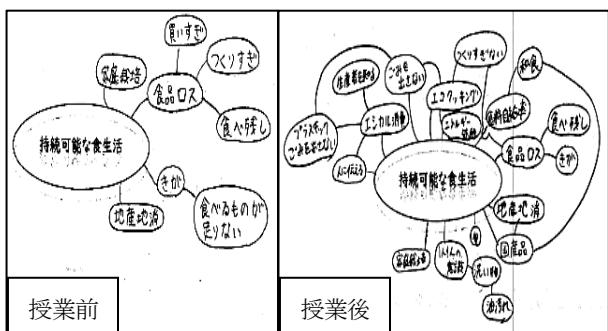


図4 生徒Aのイメージマップ

語句の数は授業前の8個から授業後は20個に、核の数は授業前の1個から授業後は3個に増加した(図4)。核となった語句は、授業前は「食品ロス」のみであったが、授業後は「エシカル消費」と「エコクッキング」が加わった。また、エキスパート活動で担当した「エコクッキング」の語句から「ごみを出さない」「プラスチックごみを出さない」の語句を通して「エシカル消費」へつながっている。これらのことから、知識が増えただけでなく、知識同士を関連付け、持続可能な食生活を多面的・多角的に捉えたと推察できる。

#### (イ) 事後インタビュー

イメージマップ内の語句と核の増加が顕著に見られた生徒15名に、第5時の授業終了後にインタビューを行ったところ、知識の広がりを感じた場面については「ジグソー活動」が12名、「エキスパート活動」が2名、「イメージマップの記述」が1名であった。表3は、インタビューの回答(ICレコーダーの録音記録)を文字に起こし、抜粋・整理したものである。

表3 インタビューの回答(一部抜粋)

生徒回答
・自分が選んだものも分かったし、班で活動したときもみんなから知識が入ってきて分かりやすかった。特に自分がやった所を人に教える所で視点が広がった。
・ジグソー活動で、違う所で同じ課題について班の人たちと考えることによって、自分だけでは発見できることや言い回しがあって、そういう人たちが4人集まるで深い理解ができた。また、社会科で地産地消についてやっていたけれど、エネルギーにつながることが分かった。
・一つのことを詳しく調べられたから、その後の共有もしやすかった。ジグソー活動でグループの人からエコクッキングのことを聞いて調べたら、残さず食べたり使えるものは使ったりした方が自給率は高くなるらしくて、エコクッキングと自給率がつながっていることが分かった。

ジグソー活動の中でも特に、「自分が伝える場面で視点が広がった」と述べた生徒がいた。このことから、一度取り入れた知識を自分で整理し他者に表現する活動は、より学習者の知識を広げるために有効であると推測される。また、同じ問い合わせ異なる視点で考え、それを共有することで理解が深まり、既習事項とのつながりにも気付くことができたと述べた生徒がいた。多面的に考えるための資料の提供と他者との共有場面の設定が、学習者の視点を広げ、知識同士を関連付けることにつながったと推察できる。

一方、エキスパート活動で知識が広がったと述べた生徒もいた。このことから、一つの資料について考えを深めたり、詳しく調べたりする活動は、共有の場面でより知識を広げることに効果的であると考えられる。

### (3) 思考の深まり

#### ア 行動につながる記述になっているか

「食べ残しをしない」「横須賀でとれた野菜を売っている店に行く」等、問い合わせに対する考えに表れた行動につながる記述を①～⑪にカテゴリ一分けし、第1時と第5時で比較し分析した。なお、知識の広がりと思考の深まりを比較するために、各カテゴリの項目は表2と同様とした。

表4 問いに対する考えに表れた行動につながる記述の数の比較 (n=110)

No	カテゴリー	エキスパート資料	授業前の記述数(個)	授業後の記述数(個)
①	地産地消（国産含む）	A	5	23
②	旬のものを購入	A,C	8	24
③	食品ロス対策	B,C	246	254
④	省エネ（節電・節水・節約）	A～D	7	58
⑤	認証ラベル付き商品の購入	D	3	22
⑥	被災地支援品の購入	D	0	4
⑦	オーガニック商品の購入	D	0	3
⑧	マイバッグ等の持参	C	11	43
⑨	プラスチック削減	D	1	13
⑩	生活排水の処理の工夫	C	0	19
⑪	その他	—	12	24
合計			293	487

全てのカテゴリーにおいて、行動につながる記述が増加した(表4)。授業の前後で変化が顕著に見られたのは、「④省エネ(節電・節水・節約)」と「⑧マイバッグ等の持参」である。④については四つのエキスパート資料同士のつながりに気付いたり、⑧については今まで自分が取り組んでいたことが問い合わせをえる上での大事な視点だったということに気付いたりしたことから、行動につながる記述が増加したと推測できる。

「⑩生活排水の処理の工夫」に関する記述は授業後に初めて出現した。生活排水が環境に及ぼす影響力を知り危機感を感じるとともに、意識と行動を変容させることで中学生でも簡単に生活に取り入れができると認識したためであると考察できる。

#### イ 行動につながる記述になった要因

表5は、授業の振り返りの記述から、行動につながる記述を抜粋・整理したものである。

表5 授業の振り返りの記述内容(一部抜粋)

生徒記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>Nさんの、環境に配慮した取組についての意見が説得力のあることで、自分の中で「確かに」と思った。できることから取り組むことが大切と学んだ。</li> <li>他の班の発表を聞いてみて、三角コーナーや水の節約など、私たちが思いつかないようなことを考えていて、いろんな視点で発表を聞き考えることができた。</li> <li>他の班の意見を聞いて、自分たちの対策や問題のほかに色々な意見があった。油を拭いてもキッチンペーパーがゴミになって、対策が問題になってしまった。</li> </ul>

他グループの生徒の意見を聞いたことで、自分の中

で納得し自分にできることについて具体的に考えたり、新たな視点を取り入れて考えたりすることができたと述べた生徒がいた。同様の記述は他の生徒にも見られたが、これらの記述はクロストークを行った第4時の振り返りに表れた。クロストークにおける生徒の振り返りの記述から、取り入れた視点が行動につながる記述になった要因として、根拠をもとにした他グループの意見から再度自分で問い合わせについて考えるクロストークの時間が影響したと推察できる。

また他グループの発表から、一つの対策のメリットとデメリットに気付いたと述べた生徒がいた。この生徒は、他者との対話はあまり多くなかったが、共有や発表の場面では他者の意見を聞き、熱心に書き取る様子が見られた。このことから、観察可能な対話的な活動が少なくても、資料や他者の意見から自分で問い合わせ直す活動を通して、思考を深めることができたと推察できる。

#### (4) 持続可能な食生活の実現に向けた意識の変容

検証授業前後のアンケート調査で、「持続可能な食生活を実現するために、これから取り組みたいことはありますか?」という問い合わせを用いて、課題解決に向けた実践活動への意識の変容について分析した。

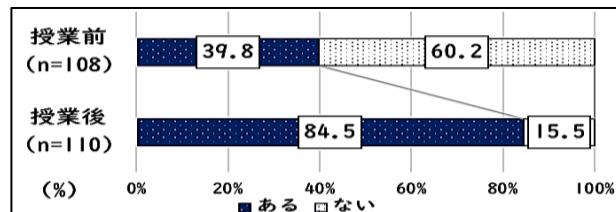


図5 持続可能な食生活の実現に向けての意識の変容

授業前は「ある」の回答は39.8%であったが、授業後は84.5%と、44.7ポイント上昇した(図5)。この結果から、検証授業を通して、多くの生徒が生活の課題を発見し、持続可能な食生活の実現に向けて実践しようと意識が変容したことが分かる。

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

中学校家庭科消費生活の授業において、知識を広げ、思考を深めることを目指して、知識構成型ジグソー法による対話的な学びを取り入れた授業実践に取り組んだ。検証授業後のアンケート調査から、93%の生徒が知識構成型ジグソー法を活用した授業を肯定的に捉えたことが分かった。

家庭分野の学習において知識構成型ジグソー法を活用した授業を取り入れたことで、教材から得られる知識と既習事項や学習者自身の生活経験を交えた対話となり、生徒の知識を広げ、思考を深めることにつなげることができた。このような対話的な学びは、家庭分野の目標にある「よりよい生活の実現」につながると

考えられる。

また検証授業では、多様な他者との対話を通して自分や家族の生活の中から問題を見出し、課題を設定し、レポートで実践することにつなげることができた。知識構成型ジグソー法を活用した授業を通して様々な視点から生活の課題を発見し、具体的な解決策を考えさせることは、家庭分野の思考力・判断力・表現力等において育成を目指す資質・能力に示されている「家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、これから的生活を展望して課題を解決する力」を育成する手立てとして有効であると考えられる。

## 2 研究の課題と今後の展望

### (1) 知識構成型ジグソー法を活用した授業の位置付け

前述したとおり、今回の検証授業は重点題材として5時間で行った。生活での実践につなげるためには、四つのテーマの情報共有を行い、既習事項や学習者自身の生活経験と交えた対話をするため、本研究においては設定した授業時数は妥当であったと考える。しかし家庭分野の年間授業時数を考慮すると、知識構成型ジグソー法を活用した授業をどこに位置付けるかを検討する必要があるだろう。年間指導計画や題材の計画において、導入での活用、学習の進んだタイミングでの活用、題材全体での活用等、効果的な活用のタイミングを適切に判断していきたい。

### (2) 配慮が必要な生徒に対する手立て

検証授業を通して、活動には活発に参加しているがイメージマップや問い合わせに対する考え方の内容からは知識の広がりや思考の深まりが見られなかった生徒が確認できた。このような生徒に対して、今の時点でどのように考えているのかを聞き、考えを整理させるなど、授業での適切な働き掛けや細やかな配慮をしていきたい。

また生活経験を交えた対話には、生徒のプライバシーへの配慮も欠かすことはできない。家庭分野の学習においては家庭の状況等、特に生徒一人ひとりに対する配慮を大切にしながら、授業実践に臨んでいきたい。

## おわりに

本研究を進めるに当たり、御理解・御協力いただいた横須賀市立野比中学校の生徒・教職員を始めとして全ての皆様に心から感謝を申し上げ、結びとしたい。

### [指導担当者]

廣戸 久恵<sup>2</sup> 岡田 絵美子<sup>2</sup> 秦野 裕子<sup>3</sup>

## 引用文献

- 中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2023年10月10日取得)
- 中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申) 別添資料(2/3)」別添11—1  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_3\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_2.pdf) (2023年12月21日取得)
- 文部科学省 2017 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説技術・家庭編』 開隆堂 p. 64
- 東京大学 CoREF・自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト 2020 『協調学習 授業デザインハンドブック 第3版—「知識構成型ジグソー法」の授業づくり—』 p. 30
- 井上篤子 2014 「生徒の学習意欲と思考力を高める社会科の授業づくりの研究～協同学習の実践をとおして～」(『島根大学大学院教育学研究科「現職短期1年コース」課題研究成果論集』) pp. 1-10  
<https://ir.lib.shimane-u.ac.jp/31738> (2023年11月15日取得)
- 小清水貴子・藤原恵里・山下美乃里 2018 「知識構成型ジグソー法を取り入れた家庭科の学習指導の実践的研究」(『静岡大学教育実践総合センター紀要』第27巻) pp. 91-98  
<https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/records/9414> (2023年12月21日取得)
- シェイファー実緒・中山節子・久保桂子 2018 「自らの消費行動に焦点をあてた家庭科の消費環境学習」(『千葉大学教育学部研究紀要』第66巻第2号) pp. 127-132  
<https://opac.11.chiba-u.jp/da/curator/105137/> (2023年12月21日取得)

## 参考文献

- 三宅なほみ・東京大学CoREF・河合塾 2016 『協調学習とは一対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業—』 北大路書房
- 高木幸子・嶋村洋子 2003 「技術・家庭(家庭分野)において住まい方を考えさせるカリキュラムの開発」(『日本家庭科教育学会誌』第46巻第1号) pp. 27-36
- 堀内かおる 2020 『生活をデザインする家庭科教育』 世界思想社

# 技術家庭科（家庭分野）題材指導計画

横須賀市立野比中学校

教諭 野村 悠衣

1. 日時 令和5年9月12日(火)から9月20日(水) 全5時間

2. 場所 横須賀市立野比中学校

3. 対象 第2学年4クラス 計124名

## 4. 研究テーマ

知識の広がりと思考の深まりを目指した中学校家庭科消費生活の授業  
—知識構成型ジグソー法による対話的な学びを通して—

## 5. 研究の概要

(目的) 中学校家庭科消費生活の授業において、知識を広げ、思考を深めるために、知識構成型ジグソー法による対話的な学びを行うことが有効であることを明らかにする。

(仮説) 中学校家庭科消費生活の授業において、知識構成型ジグソー法による対話的な学びを行うことは、生徒の知識を広げ、思考を深めることに有効であろう。

## 6. 題材名、内容のまとめ

題材名 持続可能な食生活を目指して

### 内容のまとめ

C 消費生活・環境 (2) 消費者の権利と責任

- ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。
- イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。

## 7. 題材観

これまでの食生活についての学習を基礎とし、「B 衣食住の生活」との関連を図り、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について、知識構成型ジグソー法による対話的な学びを通して考えていく。自分の日常生活に結び付けて持続可能な食生活について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどの学習を通して、課題を解決する力と生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことをねらいとしている。

## 8. 生徒観

本校の学校教育目標は「じりつ そうぞう 豊かな心」であり、自ら考え、自らを律し、人を思いやることのできる生徒の育成を目指している。生徒は学習、部活動、行事等、何事にも意欲的に取り組むことができる。検証対象学年の生徒は、男女関係なく互いを尊重することができ、学習規律も確立している。

本校は横須賀市教育委員会による3年間のフロンティア研究助成を受託し、今年度で2年目を迎える。小グループでの対話を主とした授業を行っており、授業では生徒が仲間と意見を交わし合う場面が多く見られる。

一方、自身のこれまでの実践では、小グループでの活動場面は取り入れていたものの、考えを伝え合う活動や調べ学習にとどまり、対話的な学びで求められている「自らの考えを広げ深める」ことが実際にできているかという点について課題を感じていた。

## 9. 指導観

対話的な学びを実践しつつ、生徒が課題解決策をより深く考えるための手立てとして、「知識構成型ジグソー法」を活用する。「知識構成型ジグソー法」は、生徒に課題を提示し、課題解決の手がかりとなる知識を与えて、その部品を組み合わせることによって答えを作り上げるという、グループ活動を中心とした授業デザインの一つである。題材の問い合わせ「持続可能な食生活を実現するために、今の自分にできることはなんだろう?」と設定し、課題解決の手がかりとなる資料には、横須賀市学校給食での取組や工夫をきっかけとしたものも用いる。横須賀市は令和3年9月から中学校給食が開始となった。生徒にとって身近な教材である給食を切り口に、題材の課題の解決にせまりたい。

## 10. 題材の目標

- (1) 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解する。
- (2) 自立した消費者としての消費行動について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、消費行動と環境問題について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

## 11. 題材の指導と評価の計画

### (ア) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自己や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	自立した消費者としての消費行動について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、消費行動と環境問題について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

### (イ) 指導と評価計画

時	学習内容	学習活動	評価規準・評価方法		
			知	思	主
題材の問い合わせ『持続可能な食生活を実現するために、今の自分にできることはなんだろう?』					
1	日本や世界の食の現状について考える	① 題材の問い合わせを知る。 ② イメージマップと題材の問い合わせに対する今の考え方を書く。		・日本や世界の食料自給率やエネルギー問題、食品廃棄等の食の現状について	・持続可能な食生活について、自分の行動を振り返り、主体的に取り組もうと

		<p>③ 日本や世界の食の現状や給食の取組から題材の問い合わせについて考える。</p> <p>④ ホームグループで、どのエキスパート資料を担当するか決める。</p>		<p>て考え、問題を見いだしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> </ul> <p><b>指導にいかず評価</b></p>	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの記録</li> </ul> <p><b>指導にいかず評価</b></p>
2	エキスパート活動	<p>① エキスパートグループになり、エキスパート資料をもとに知識を得る。</p> <p>② エキスパート資料に加えて、自分たちのグループでさらに深く調べたいことを調べる。</p> <p>③ 次時に共有できるように、考えたことをまとめること。</p>	<p>・日本や世界の食料自給率やエネルギー問題、食品廃棄等の食の現状、持続可能な食生活を目指すために自分や家族の行動が環境や社会に及ぼす影響について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul> <p><b>指導にいかず評価</b></p>	<p>・持続可能な食生活についての課題解決に向けて、よりよい生活について考え、解決策を構想している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul> <p><b>記録に残す評価</b></p>	<p>・持続可能な食生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの記録</li> </ul> <p><b>指導にいかず評価</b></p>
3	ジグソー活動	<p>① ホームグループで、各々が担当したエキスパート資料について学びを共有する。</p> <p>② 題材の問い合わせに対してホームグループで考えたことを、ジャムボードにまとめる。</p>			
4	クロストーク	<p>① ホームグループで作成したジャムボードを用いて、ホームグループでの題材の問い合わせに対する考え方を発表する。</p>			<p>・持続可能な食生活について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返り、課題解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの記録</li> <li>・行動観察</li> </ul> <p><b>指導にいかず評価</b></p>
5	題材の問い合わせについていまの自分の考えを書く	<p>① 一連の活動を終えて考えたことをもとに、実践計画を書く。</p> <p>② イメージマップと題材の問い合わせに対する最後の考え方を書く。</p>		<p>・持続可能な食生活について自分の生活における問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評</p>	<p>・家族や地域の人々と協働し、持続可能な食生活について自分の生活の改善に向けて考えた課題の解決策を、家庭や地域などで実践</p>

			<p>価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>・学びの記録</p> <p>記録に残す評価</p> <p>・実践レポート (提出後)</p> <p>記録に残す評価</p>	<p>しようとしている。</p> <p>・学びの記録</p> <p>記録に残す評価</p> <p>・実践レポート (提出後)</p> <p>記録に残す評価</p>
--	--	--	--	---

※評価方法の「実践レポート」は、検証授業終了後の10月10日(火)に回収し評価を行ったため、各時の学習指導案の中には記していない。

## 12. 各時の展開

### (1) 1／5 時間目

#### ①本時のねらい

日本や世界の食の現状や横須賀市学校給食の取組について知り、題材の問い合わせについて考えることができる。

#### ②学習活動

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
10分	1 題材の学習内容を確認し、学習の見通しを持つ。  2 本時の学習内容、題材の問い合わせを知る。 <b>【題材の問い合わせ】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">           持続可能な食生活を実現するために、今の自分にできることはなんだろう？         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題と、学習の進め方を確認する。</li> <li>・題材の問い合わせを提示する。</li> </ul>	
10分	3 イメージマップと題材の問い合わせに対する今の自分の考えを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今持っている知識や視点をなるべく沢山書き出せるように助言する。</li> <li>※共有はさせない。</li> </ul>	
20分	4 なぜ持続可能な食生活について考える必要があるのかを考える。  5 日本や世界の食の現状や、横須賀市の学校給食で行われている、持続可能な食生活に関連する取組について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化による影響について触れ、問題の原因を考えさせる。</li> <li>・一人ひとりの行動を変える必要性について理解させる。</li> <li>・横須賀市の学校給食の取組を紹介し、身近なところでも取組がされていることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【ワークシート】</li> <li>・【行動観察】</li> </ul> 思考・判断・表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">指導にいかす評価</div>
5分	6 どのエキスパート資料を担当するか決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート資料は、事前に行つたアンケートをもとに作成していることを伝え、より学習を自分事にさせられるようにする。</li> </ul>	
5分	7 学びの記録を記述する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を振り返り、次回の学習につなげさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【学びの記録】</li> </ul> 主体的に学習に取り組む態度 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">指導にいかす評価</div>

## (2) 2／5 時間目

### ①本時のねらい

自分や家族の行動が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、よりよい生活について考え、解決策を構想することができる。

### ②学習活動

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
5分	1 学びの記録を全体で共有し、仲間の考え方や気付きを知る。	・学びの記録の記述から、本時の学びにつながりそうなもの、全体で共有したら考えが深まりそうなものをいくつか紹介して、本時につなげる。	
5分	2 本時の学習内容を知る。	・本時の学習内容を知らせる。	
35分	3 エキスパートグループになり、個人で資料を読み込む。(ワークシートに記述)	・「現状・課題」をまず読み取り、その後「自分たちにできること」を記入できるように助言する。	・【ワークシート】 知識・技能 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">指導にいかず評価</span>
	4 エキスパートグループになり、グループのメンバーと資料について共有する。(ワークシートに記述)	・お互いにわかったことや考えたことを伝え合うよう助言する。 ・共有する中で気付いたことや自分たちにできる解決策を共有するよう助言する。	・【ワークシート】 思考・判断・表現 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記録に残す評価</span>
5分	5 学びの記録を記述する。	・学んだこと、考えたこと、生活にいかしたいことなどを具体的に記述させ、主体的に取り組もうとする意欲を高める。	・【学びの記録】 主体的に学習に取り組む態度 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">指導にいかず評価</span>

### (3) 3／5 時間目

#### ①本時のねらい

自分や家族の行動が環境や社会に及ぼす影響について多角的に理解するとともに、よりよい生活について考え、具体的な解決策を構想することができる。

#### ②学習活動

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
5分	1 学びの記録を全体で共有し、仲間の考え方や気付きを知る。  2 本時の学習内容を知る。	・学びの記録の記述から、本時の学びにつながりそうなもの、全体で共有したら考えが深まりそうなものをいくつか紹介して、本時につなげる。  ・本時の学習内容を知らせる。  ・担当以外のエキスパート資料も配付する。	
15分	3 ホームグループになり、各々が担当したエキスパート資料について、1人2分でわかったこと・考えたことを共有する。	・自分が担当した資料については責任をもって共有するよう助言する。 ・他者が担当した資料はしっかりとメモをとらせ、疑問点は質問をし、さらに思考できるように促す。	
5分	4 題材の問い合わせ、「買い物」「調理」「外食・テイクアウト」の場面（その他の場面でできることがあれば「その他」）でできることを考え、ワークシートに記述する。	・4つの資料から、3つの場面でできることを具体的に記述させる。	・【ワークシート】 知識・技能  指導にいかず評価
20分	5 4でワークシートに記入した内容を、ジャムボードに付箋で書き出し、書き出された意見を、グループでイメージマップ方式でまとめる。	・次時で発表することを踏まえ、他の班に自分たちの考えが伝わるようにまとめるよう助言する。（形にこだわることが目的ではない） ・「なぜそう考えるのか」という理由まで発表できるようにしておくことを伝える。	・【ワークシート】 思考・判断・表現  記録に残す評価
5分	6 学びの記録を記述する。	・学んだこと、考えたこと、生活にいかしたいことなどを具体的に記述させ、主体的に取り組もうとする意欲を高める。	・【学びの記録】 主体的に学習に取り組む態度  指導にいかず評価

(4) 4／5 時間目

①本時のねらい

自立した消費者として自分にできる消費行動を考え、課題解決に主体的に取り組もうとする。

②学習活動

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
5分	1 学びの記録を全体で共有し、仲間の考え方や気付きを知る。  2 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの記録の記述から、本時の学びにつながりそうなもの、全体で共有したら考えが深まりそうなものをいくつか紹介して、本時につなげる。</li> <li>・本時の学習内容を知らせる。</li> </ul>	
35分	3 クロストーク（発表）を行う。  聞いている人は、自分の班になかった考え方や新たな気付きなどをワークシートに記述する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャムボードを活用し、根拠とともにグループとしての題材の問い合わせについての考え方を説明するよう助言する。</li> </ul>	・【行動観察】 主体的に学習に取り組む態度 <b>指導にいかず評価</b>
10分	4 学びの記録を記述する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだこと、考えたこと、生活にいかしたいことなどを具体的に記述させ、主体的に取り組もうとする意欲を高める。</li> </ul>	・【学びの記録】 主体的に学習に取り組む態度 <b>指導にいかず評価</b>

## (5) 5／5 時間目

### ①本時のねらい

自分の生活の改善に向けて考え、課題をもって持続可能な食生活の実現に向けた実践計画を工夫することができる。

### ②学習活動

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
5分	1 学びの記録を全体で共有し、仲間の考え方や気付きを知る。  2 本時の学習内容を知る。	・学びの記録の記述から、本時の学びにつながりそうなもの、全体で共有したら考えが深まりそうなものをいくつか紹介して、本時につなげる。  ・本時の学習内容を知らせる。	
10分	3 実践計画を個人で作成する。	・自分の生活の中で特に課題だと思うところと、それに対する改善策を具体的に記述するように助言する。	
10分	4 実践計画をグループ内で共有する。	・グループのメンバーの計画を聞く中で、参考にできる部分は取り入れ、より良い方法があればアドバイスするよう助言する。	
20分	5 イメージマップと題材の問い合わせに対する最後の自分の考えを記述する。		・【学びの記録】 思考・判断・表現 記録に残す評価
5分	6 学びの記録を記述する。	・学んだこと、考えたこと、生活にいかしたいことなどを具体的に記述させ、実生活で主体的に取り組もうとする意欲を高める。	・【学びの記録】 主体的に学習に取り組む態度 記録に残す評価

持続可能な食生活を実現するために、いまの自分にできることを考えよう／エキスパート資料A

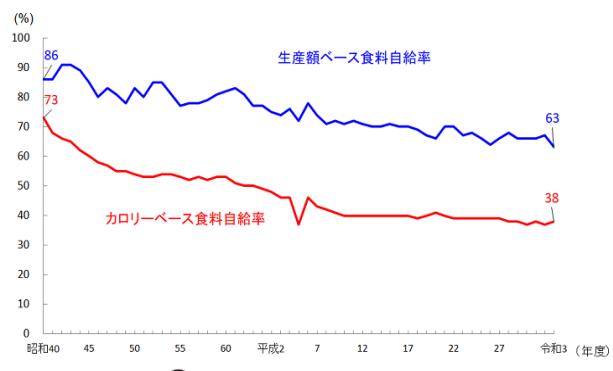
この資料のポイント

「食料自給率」の現状と「フード・マイレージ」から、自分たちにできることを考えよう！

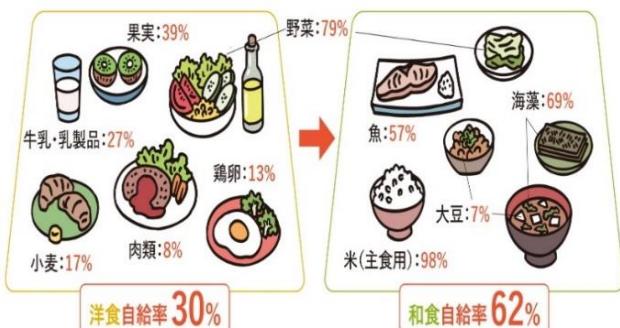
## ○日本の食料自給率

「食料自給率」とは、国内で消費されている食料が、国内の食料生産でどれだけ賄(まかな)えているかを示す値のこと(ここで挙げる値は、食料に含まれるカロリーをもとに計算したもの)。日本の食料自給率は、**先進国の中で最も低い**。資料1は、日本の食料自給率の変化を表したものである。令和3年度の日本の食料自給率は**38%**であるが、農林水産省は、2025年度までに食料自給率を**45%**まで引き上げることを目標としている。また、洋食と和食に使用している食材の自給率を比較してみると、資料2のような値になるというデータもある。

資料1 日本の食料自給率の変化



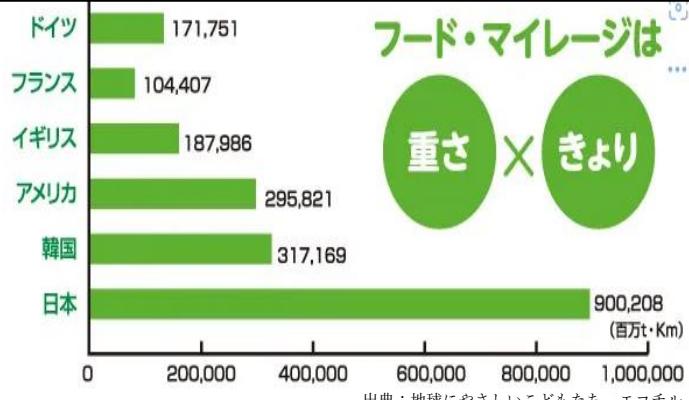
資料2 洋食と和食の食料自給率の比較



## ○フード・マイレージとは？

食品の輸送が環境に与える負荷の大きさを表す指標のこと。食品の輸送には、車、飛行機、船などが使われる。輸送距離が長いほど輸送に多くのエネルギーを消費し、二酸化炭素を排出することになる。食品の多くを輸入に頼っている日本は、諸外国に比べ、**フード・マイレージが大きい**(資料3)。

資料3 輸入食料に係るフード・マイレージの比較(品目別)



## ○地産地消とは？

国内の地域で生産された農林水産物(食用に供されるものに限る。)を、その生産された地域内において消費する取組のこと。

地産地消のメリットってなんだろう？

## ○よこすかの誇り、『よこすか野菜』

横須賀では、おいしくて高品質な野菜や果物がたくさん作られている。詳しくは、『よこすか野菜ガイドブック』を見てみよう！

「地産地消」を実践する具体的な方法や、「地産地消」のほかにもできそうなことを、グループのメンバーと意見を出し合ってみよう！

どんなメニューがいいのかな？

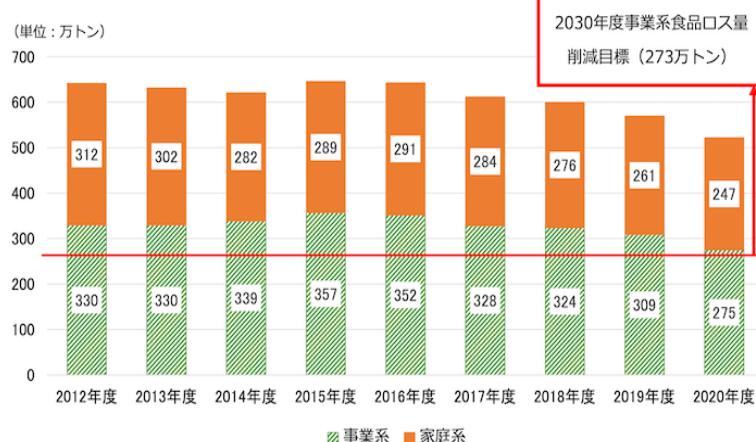
## 持続可能な食生活を実現するために、いまの自分にできることを考えよう／エキスパート資料B この資料のポイント

「食品ロス」の現状を知り、「食品ロス」を減らすために自分たちにできることを考えよう！

### ○「食品ロス」の現状

「食品ロス」とは、まだ食べられるのに、捨てられてしまう食べ物のこと。農林水産省によると、2020年度の日本の年間食品ロス量は**522万トン**と、2014年に推計を開始して以来、最少となった（資料1）。しかしこれは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた**世界の食料援助量（420万トン）の約1.2倍**にあたる（資料2）。国民1人当たりの食品ロス量は1日113グラムと、**茶碗約1杯分**（約150グラム）のご飯に近い量に。年間に換算すると、1人当たり約41キログラムの食品が廃棄されていることになる。

資料1 2012年度から2020年度の  
日本国内の食品ロス量の推移



資料2 世界の食料援助量と  
日本の食品ロスの比較



出典：日本財團ジャーナル 世界で捨てられる食べ物の量、年間25億トン。食品ロスを減らすためにできること

出典：とやま食ロスゼロ作戦

### ○食べ物を捨てるとは、「もったいない」だけ？

食べ物を焼却処理する際に、多くの**二酸化炭素**が排出される。それだけでなく、食品ロスは家計にも悪い影響を与える。家庭における食品ロスとは、お金を捨てていることほとんど同じ。一般的に食費は、**消費支出のうち約1/4**を占めている。



### ○知ってる？フードシェアリングアプリ「TABETE(たべて)」

「フードシェアリング」とは、まだおいしく安全に食べられるのに店頭で売れ残ってしまいそうな商品を、お得に購入できるサービスのこと。おいしく作った商品を売り切りたいというお店の思いと消費者をつなぐフードシェアリングアプリ。

### ○知ってる？「フードバンクかながわ」

「フードバンク」と「フードドライブ」とは…？まだ手をつけていない食品を無駄にしないためには、どのようなことができるだろう？冊子「食品のひみつ」から、「フードバンクかながわ」の取組を調べてみよう。

食品ロスを減らすには、いろいろな取り組みができそう！  
自分たちにはなにができるか、グループで話し合ってみよう！



## この資料のポイント

「エコクッキング」のメリットを知り、それぞれの場面で自分たちにできる「エコクッキング」を考えよう！

○「エコクッキング」とは、買い物、調理、食事、片づけの場面で、環境に配慮した工夫をすること。

### 資料1 夏が旬のトマトを1kg作るのに必要なエネルギー

○旬の時期でなくても食べられるけど…

トマトの旬の時期は夏だが、冬でも購入することができる。それは、温室栽培を行っているからである。しかし、温室栽培にはたくさんのエネルギーが必要になる（資料1）。

旬のトマト  
約 1,200kcal

およそ 10 倍

温室栽培のトマト  
約 12,000kcal

出典：東京ガスネットワーク「エコクッキングとは」

### 資料2 家庭における用途別エネルギー消費の変化

教科書の『家庭における用途別エネルギー消費の変化』のグラフを印刷して貼り付けました

出典：東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」

皮をむかずに食べられるものは皮ごと食べ、芯やくきなどはすべて捨ててしまうのではなく、細かく切って利用することもできる。どうしても捨てなければいけないヘタや根本の部分などは、切りすぎないように注意する。

夕食は、どんなメニューがいいかな？



○そのまま流してない？

油や調味料をそのまま排水溝に流してしまった場合、海の生き物たちが住めるようにするために、ものすごい量の水が必要になる（資料3）。**台所の排水溝は、ゆくゆくは海へつながっていく。**きれいな海を保つためには、どのような工夫ができるのだろうか。

### 資料3 魚が住めるようにするために必要な水の量

天ぷら油 500ml	しょうゆ 大さじ1杯 (15ml)	みそ汁 お椀1杯 (200ml)	牛乳 コップ1杯 (200ml)
↓ 風呂おけ 555杯	↓ 風呂おけ 2.2杯	↓ 風呂おけ 4.9杯	↓ 風呂おけ 11.1杯



出典：東邦ガスネットワーク「片付けのポイント エコクッキング」

持続可能な食生活を実現するために、いまの自分にできることを考えよう／エキスパート資料 D  
この資料のポイント「エシカル消費」の重要性と様々な取り組みを知り、自分たちにできることを考えよう！

## ○「エシカル消費」とは？

地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境の側面にも配慮した消費行動のこと。「**買い物は投票**」であり、ある商品を買うことは、その商品・生産者・販売者を支持することにつながる。

## ○開発途上国が抱える深刻な問題「児童労働」

チョコレートの原料となるカカオ豆は、価格が大きく変動し、生産者が安定した収入を得られない。そのため、生産地では貧困が原因で学校に行けずに農園で働く子どもたちが大勢いる。その数は、約1億5,200万人、実に世界の子どもの**10人に1人**にあたる。

## ○家庭から出るプラスチックごみ

食品や飲料に使われている容器や包装は、家庭から出るごみの半分以上を占めている。プラスチックは、焼却処理する際に多くの**二酸化炭素**を排出する。また、大量のプラスチックごみが海に流出し、海を汚染しているという現状もある。

商品を購入するときの容器はどのようなものが良いかな？

### 資料1 家庭ごみのうち、容器包装ごみが占める割合

教科書の『家庭ごみのうち容器包装が占める割合(容積比率)』のグラフを印刷して貼り付けました

出典：東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」

## ○児童労働や人権・環境に配慮した商品

①「フェアトレード商品」…「フェアトレード」とは、開発途上国の原料や製品を、適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い開発途上国の生産者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組みのこと。フェアトレード商品を購入することは、**開発途上国の生産者をサポート**することにつながる。

### 国際フェアトレード認証ラベル→



②「被災地支援品」…自然災害などにより甚大な被害を受けた地域の事業者がつくる商品を買うことによって、**被災地の復興を支援**するもの。被災した生産者、販売者が以前からその地でつくっていた農水産物やそれらを加工した商品、地域固有の産業や伝統を生かした復興支援商品を購入することは、その地で生きていく方々の支援になるとともに、その地の**歴史や文化、伝統**を守ることにもつながる。

↑西日本豪雨のあとに販売されたお菓子。購入すると1箱当たり10円が寄付される。

## ○エコルシェ横須賀

横須賀一(いち)エコなマルシェを目指して、**地域の資源を持続可能な方法で有効活用**し、量り売りや地産地消などを行っているお店。「なるべくゴミを出さない」をテーマに、消費者に持ち帰り用の容器やマイバッグの持参をすすめている。佐島にある「マゼラン湘南佐島」で毎月第3日曜日に開催している。

### 地球と健康にやさしい オーガニック竹歯ブラシ→



## 2年生 家庭科 題材「持続可能な食生活を目指して」

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

☆「持続可能な食生活」について、イメージマップを書いてみよう！

1時間目

持続可能な食生活

5時間目

2年 組 番 氏名

持続可能な食生活

2年生 家庭科 題材「持続可能な食生活を目指して」

# 学びの記録

題材の問い合わせ

2年 組 番 氏名

☆学習を始める前に…

Q.持続可能な食生活を実現するために、いまの自分にできることはなんだろう？

いまやっていること

これからやろうと思うこと

☆学習を終えて…

Q.持続可能な食生活を実現するために、いまの自分にできることはなんだろう？

いまやっていること

これからやろうと思うこと

☆学習を振り返って…

Q.学習を始める前と後を比べて、気づいたことや考えたことはありますか？また、もっと調べてみたいことはありますか？

☆題材の見通し

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
題材の問い合わせに対して いまの自分の考えを 書く	エキスパート活動	ジグソー活動	クロストーク	題材の問い合わせに対して 最後の自分の答え を書く

☆授業の振り返り

○1時間目 \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_ ○印象に残ったキーワード: \_\_\_\_\_

- 自己評価 ①題材の学習内容について、興味を持つことができた。( A · B · C )  
②自分の生活を振り返ることができた。( A · B · C )  
③自分の生活をよりよくしたいと思った。( A · B · C )

○今日学んだこと、特に大事だと思ったこと、自分の生活にいかしていきたいこと

-----  
-----

○2時間目 \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_ ○印象に残ったキーワード: \_\_\_\_\_

- 自己評価 ①題材の問い合わせの答えを出すための視点が増えた。( A · B · C )  
②班活動では、気づいた事や考えたことを伝え合うことができた。( A · B · C )  
③班活動では、気になったことや疑問に思ったことについて調べた。( A · B · C )

○今日学んだこと、特に大事だと思ったこと、自分の生活にいかしていきたいこと

-----  
-----

○3時間目 \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_ ○印象に残ったキーワード: \_\_\_\_\_

- 自己評価 ①問い合わせの答えを出すための視点が増えた。( A · B · C )  
②班活動では、質問することができた。( A · B · C )  
③班活動では、質問されたことに答えることができた。( A · B · C )

○今日学んだこと、特に大事だと思ったこと、自分の生活にいかしていきたいこと

-----  
-----

○4時間目 / ( ) ○印象に残ったキーワード: \_\_\_\_\_

○自己評価 ①問い合わせを出すための視点が増えた。( A · B · C )

②興味を持って発表を聞くことができた。( A · B · C )

③発表を聞いて、自分にできることについて考えることができた。( A · B · C )

○今日学んだこと、特に大事だと思ったこと、自分の生活にいかしていきたいこと  
-----  
-----

○5時間目 / ( ) ○印象に残ったキーワード: \_\_\_\_\_

○自己評価 ①問い合わせを出すための視点が増えた。( A · B · C )

②班活動では、質問することができた。( A · B · C )

③班活動では、質問されたことに答えることができた。( A · B · C )

○今日学んだこと、特に大事だと思ったこと、自分の生活にいかしていきたいこと  
-----  
-----

メモ

2年生 家庭科 題材「持続可能な食生活を目指して」

# 持続可能な食生活

## 実践レポート

提出期限: 10月10日(火)

2年 組 番 氏名

---

1. 自分の生活の中の課題

2. 計画

3. 実践の記録(写真を用いても OK!)

4.振り返り・自己評価

5.今後の課題・改善できそうなこと

6.考察(わかったことや考えたこと)

【持続可能な食生活についてのアンケート】(夏季休業前に、Google フォームにて3件法で回答)

<選択肢> ①知っていて、生活に取り入れている ②知っているが、生活に取り入れていない ③知らない

1. 地産地消について知っていますか?
2. 食品ロスについて知っていますか?
3. 食料自給率について知っていますか?
4. 健康的な食事について知っていますか?
5. 「旬」や「値段」を意識して食材を購入することの良さについて知っていますか?
6. フードドライブ、フードバンクについて知っていますか?
7. エコクッキングについて知っていますか?
8. エコバッグ（マイバッグ）やマイ箸を使う等、資源を大切にする工夫について知っていますか?
9. 3R（リユース、リデュース、リサイクル）について知っていますか?
10. プラスチックごみ削減に向けた取組について知っていますか?
11. エシカル消費について知っていますか?

【家庭分野の学習に関するアンケート】(検証授業前後に、Google フォームにて4件法及び記述式で回答)

<選択肢> ①そう思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④思わない

<検証授業前>

1. 家庭分野の学習は好きですか?
2. 家庭分野の学習は大切だと思いますか?
3. 家庭分野の学習は、自分の生活に役に立つと思いますか?
4. 家庭分野の学習は、自分の将来の生活や社会に出て役に立つと思いますか?
5. 家庭分野の学習に関することで、わからぬことや興味関心を持ったことについて自分から調べようとしていますか?
6. 家庭分野の学習で、自分で考えたり工夫したりすることは好きですか?
7. 家庭分野の学習で学んだことを、自分の生活の中で実践していますか?
8. 上の質問に「そうしている」「どちらかといえばそうしている」と答えた人は、具体的な内容を教えてください。（記述式）
9. 上の質問に「3」「そうしていない」と答えた人は、家庭分野の学習で学んだことを、今後自分の生活の中で実践したいと思いますか?
10. 持続可能な食生活を実現するために、取り組んでいることはありますか?
11. 上の質問に「ある」と答えた人は、具体的な内容を教えてください。（記述式）
12. 持続可能な食生活を実現するために、これから取り組みたいことはありますか?
13. 上の質問に「ある」と答えた人は、具体的な内容を教えてください。（記述式）
14. あなたの意識や行動が、持続可能な食生活を実現するのに役立つと思いますか?

<検証授業後>

上記に加え、以下の質問を追加。

15. ジグソー法を活用した授業の、よかつたところを教えてください。（記述式）
16. ジグソー法を活用した授業の、難しかったところを教えてください。（記述式）
17. ジグソー法を活用した授業では、自分から進んで学習に取り組むことができましたか?
18. ジグソー法を活用した授業では、題材の問い合わせについて様々な視点で考えることができましたか?
19. ジグソー法を活用した授業の感想を教えてください。（記述式）